

# 新潟への誇りと愛着の醸成について

## 新潟への誇りと愛着を育むとは

- **誇りと愛着の意味**（小学館 デジタル大辞泉より）  
「誇り」… 誇ること 名誉に感じること また、その心 「愛着」… なれ親しんだものに深く心が引かれること  
↳ すぐれているとあって得意になる。また、**その気持ちを言葉や態度で人に示す**。自慢する。
- 第2期総合戦略で掲げる、新潟市の「目指すべき将来」に向けた方向性の一つ『**新潟への誇りと愛着を育む**』とは、**新潟の良さを市民が自信をもって人に示せるようになる**ということ
- 2020年に新潟市が実施した、若者の市外転出の意向状況にかかるアンケート調査では、**高校生年代・大学生年代ともに8割を超える方が、新潟市に愛着があると回答している**  
⇒ 「愛着」が「誇り」へと高まって、市民一人ひとりが新潟の魅力を発信できるようになる。それが続いていくことで、新潟市が『**選ばれる都市**』になり、流出の抑制と流入の促進が図られ、人口減少が和らいでいく

### 取り組みのポイント



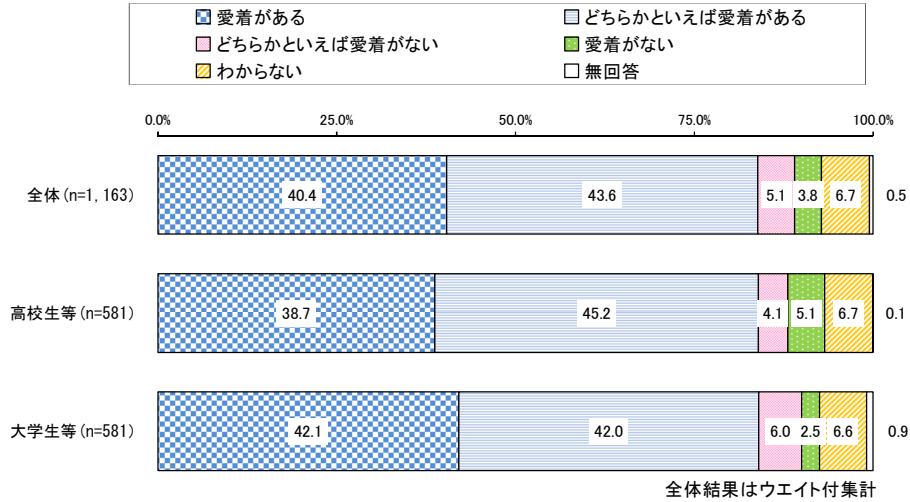
# 若者は新潟市に愛着がある

- 2020年に新潟市が実施した、市内在住の高校生等（16～18歳）と大学生等（19～22歳）を対象とした市外転出の意向状況に関するアンケート調査
- 高校生等・大学生等の8割超が「新潟市に愛着がある」と回答している



## 若者の市外転出の意向状況にかかるアンケート調査

### 新潟市への愛着の有無



<出典> 新潟市「若者の市外転出の意向状況にかかるアンケート」から抜粋

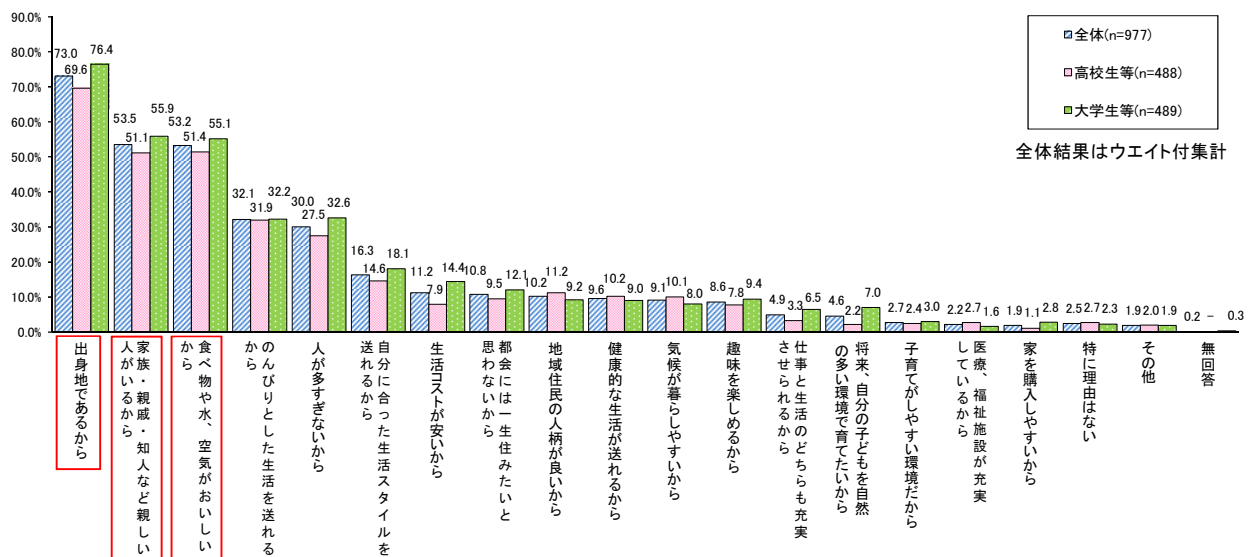
「全体結果の数値」は、回答者の年齢層及び性別の偏りを補正した「ウエイト付集計」としている

<調査概要> 調査対象：市内在住の16～18歳及び19～22歳の男女 有効回答数1,163名 調査手法：調査票の郵送 調査時期：2020年1月

# 若者は新潟市に愛着がある

- 高校生等と大学生等で、回答の傾向に大きな差はない
- いずれも「出身地であるから」という回答が最も多い。そのほか、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」「食べ物や水、空気がおいしいから」といった回答が上位に挙げられている

### 愛着のある事柄



<出典> 新潟市「若者の市外転出の意向状況にかかるアンケート」から抜粋

「全体結果の数値」は、回答者の年齢層及び性別の偏りを補正した「ウエイト付集計」としている

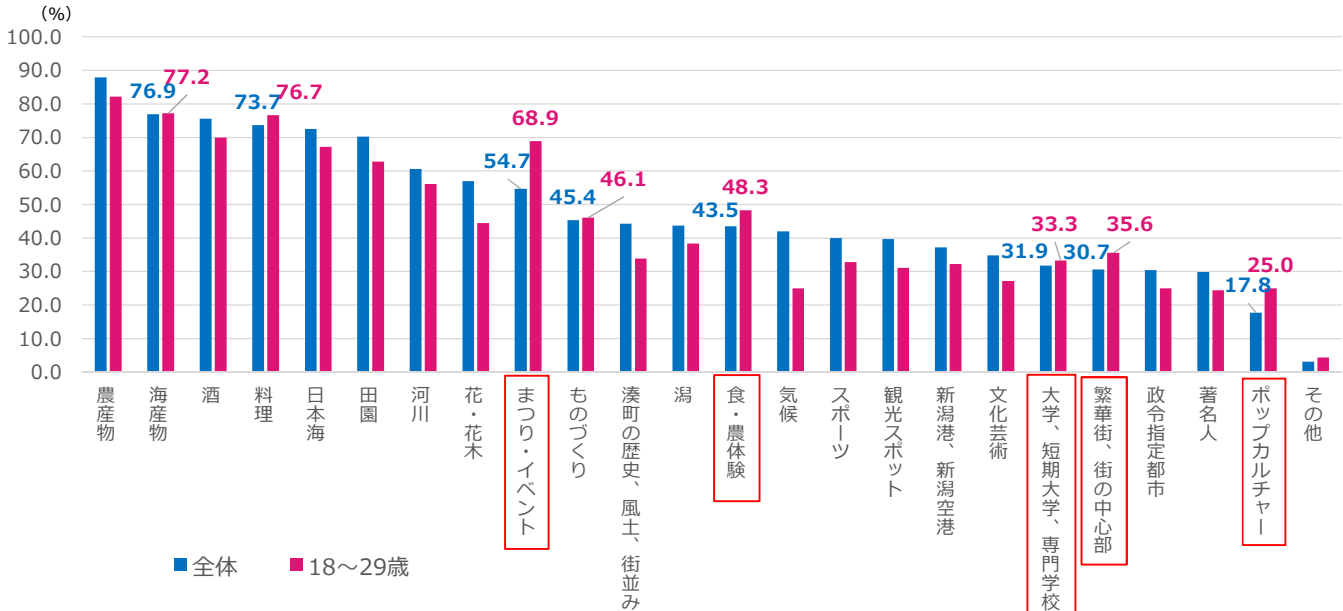
<調査概要> 調査対象：市内在住の16～18歳及び19～22歳の男女 有効回答数1,163名 調査手法：調査票の郵送 調査時期：2020年1月

## 市民が誇りや愛着を感じているもの

- 2020年に新潟市が実施した、18歳以上の市民を対象とした市に対する誇りや愛着に関する調査
- 「農産物」「海産物」「酒」など『食と農』に関係する項目が上位に並ぶ
- 全体結果と比べて 18歳～29歳 の年齢層では「まつり・イベント」「食・農体験」「大学、短期大学、専門学校」「繁華街、街の中心部」「ポップカルチャー」などが多い

市政世論調査

誇りや愛着を感じているもの



<出典> 新潟市「第47回市政世論調査」から抜粋・加工 24項目について「ある」「ある程度ある」と回答した割合

<調査概要> 調査対象：18歳以上の市民 有効回答数2,251名 調査手法：調査票の郵送 調査時期：2020年7月

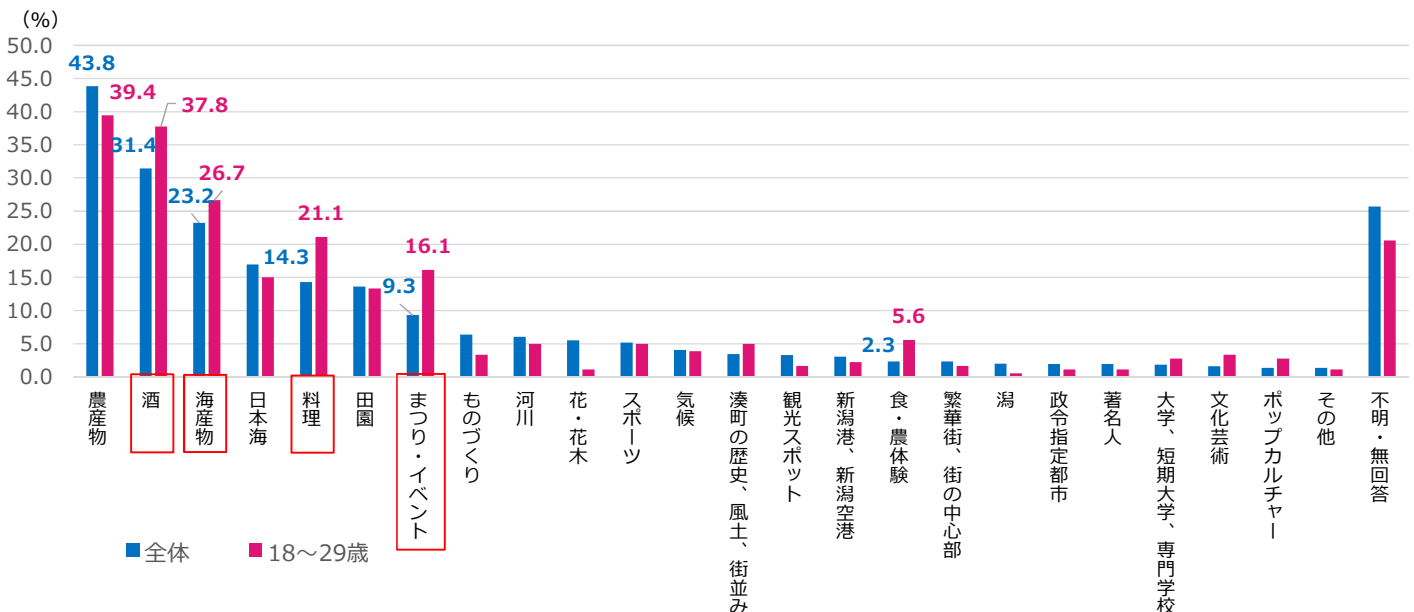
## 市民が特に誇りや愛着を感じているもの

- 2020年に新潟市が実施した、18歳以上の市民を対象とした市に対する誇りや愛着に関する調査
- 「農産物」「酒」「海産物」など『食と農』に関係する項目が上位に並ぶ
- 全体結果と比べて 18歳～29歳 の年齢層では「酒」「海産物」「料理」「まつり・イベント」が多い



市政世論調査

特に誇りや愛着を感じているもの

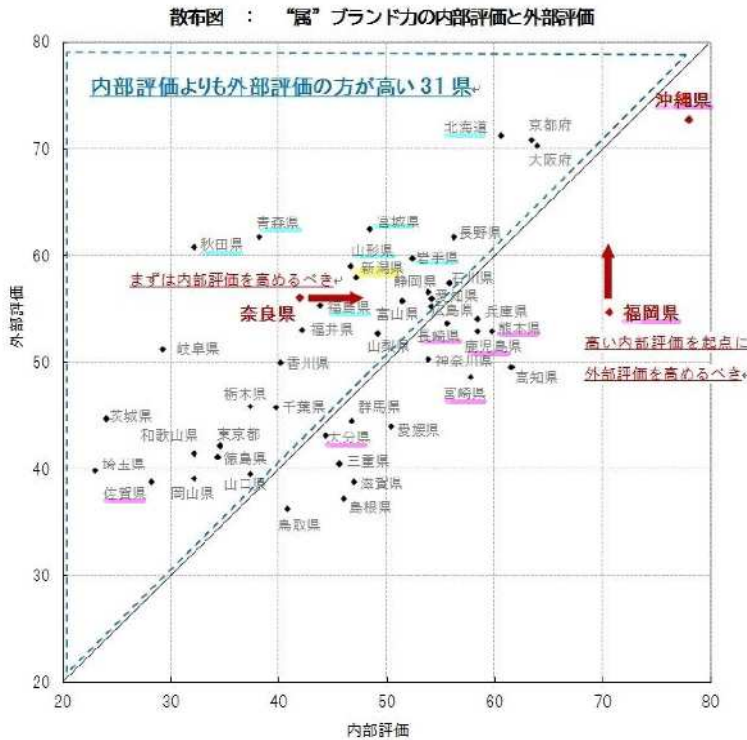


<出典> 新潟市「第47回市政世論調査」から抜粋・加工 「愛着がある」と回答したもののうち上位3つまで選択

<調査概要> 調査対象：18歳以上の市民 有効回答数2,251名 調査手法：調査票の郵送 調査時期：2020年7月

# 外部評価に対して内部評価が低い新潟県

- 2014年に株式会社博報堂が実施した、県内・県外それぞれの居住者による各都道府県に対する評価に関する調査
- 外部評価に対して内部評価が**低い** … 北海道・東北 **新潟県**
- 外部評価に対して内部評価が**高い** … 九州・沖縄 **福岡県**



この調査の分析結果では、  
**まず内部評価を高めることで、外部評価につながり、  
 ブランドカが高められる可能性がある**とされている

<出典>  
 株式会社博報堂 2014年5月19日付ニュースリリース  
 「「属」ブランド力調査」から引用・加工  
 「自分の都道府県には、自分の都道府県を愛している人が多いと思うか」  
 など、5つの視点の質問を実施。県内に住む方と県外に住む方の評価を  
 それぞれ集計。  
 <調査概要>  
 調査対象：20～69歳男女 各都道府県100名ずつ  
 調査手法：インターネット調査 調査時期：2014年1月

# 誇りを持っていない新潟市民

- 2017年に三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が実施した、各政令指定都市・東京都区部の住民を対象とした、**自分が暮らしているまちに対する思い**に関する調査



政令指定都市・東京都区部 市民のプライド・ランキング

## 1 都市に対する愛着と誇り

Q 現在お住まいの都市に愛着や誇りを感じますか

都市に対する愛着		
1位	福岡市	55.5点
2位	札幌市	47.5点
3位	京都市	43.5点
13位	新潟市	27.5点

都市に対する誇り		
1位	福岡市	39.5点
2位	京都市	38.5点
3位	神戸市	25.5点
15位	新潟市	-3.5点

⇒ **新潟市の都市に対する愛着や誇りは、  
 他政令市と比べると低め**

特に「都市のお勧め度合い」の自己評価は、  
 多くの項目でワーストレベル

## 2 都市のお勧め度合い

Q 現在お住まいの都市について、友人・知人に勧められますか

全般的によいまちであること		
1位	福岡市	62.0点
2位	札幌市	54.5点
3位	仙台市	44.5点
19位	新潟市	13.5点

買い物・遊びなどで訪れること		
1位	札幌市	57.5点
2位	福岡市	54.5点
3位	京都市	35.0点
21位	新潟市	-31.5点

住むこと		
1位	福岡市	66.5点
2位	札幌市	53.0点
3位	仙台市	51.5点
19位	新潟市	17.5点

働くこと		
1位	福岡市	49.0点
2位	札幌市	26.0点
3位	仙台市 名古屋市	21.5点
21位	新潟市	-20.0点

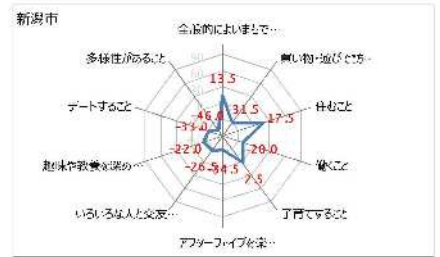
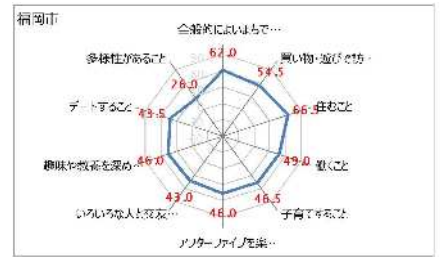
<出典> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 2017年6月14日付ニュースリリース 「市民のプライド・ランキング」から引用・加工  
 点数は「同意」の回答の割合から「非同意」の回答の割合の差を算出して指数化  
 <調査概要> 調査対象：各都市200サンプル 男女別 年齢10歳階級別 調査手法：インターネット調査 調査時期：2017年2月



# 「誇り」を持っていない新潟市民

- 愛着・誇り・お勧め度合い いずれも上位の福岡市は、全体的に高得点  
⇒ **新潟市は全体的に得点が低い**

都市別得点チャート



## 2 都市のお勧め度合い (続き)

子育てすること			趣味や教養を深めること		
1位	福岡市	46.5点	1位	福岡市	46.0点
2位	札幌市	27.5点	2位	京都市	27.5点
3位	仙台市	25.5点	3位	札幌市	26.5点
<b>17位</b>	<b>新潟市</b>	<b>2.5点</b>	<b>21位</b>	<b>新潟市</b>	<b>-22.0点</b>

## 3 都市のイメージに対する共感度合い

Q 現在お住まいの都市にあてはまると思うイメージを全て選んでください

ゆったりした			地味			停滞		
1位	静岡市	54.5%	<b>1位</b>	<b>新潟市</b>	<b>34.0%</b>	1位	北九州市	21.0%
<b>2位</b>	<b>新潟市</b>	<b>42.5%</b>	1位	岡山市	34.0%	<b>2位</b>	<b>新潟市</b>	<b>20.0%</b>
3位	浜松市	39.5%	3位	静岡市	31.5%	3位	浜松市	18.0%
4位	岡山市	39.0%	4位	浜松市	30.0%	4位	静岡市	17.0%



<出典> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 2017年6月14日付ニュースリリース 「市民のプライドランキング」から引用・加工  
都市のイメージに対する共感度合いは、都市イメージを表す言葉30項目について、住んでいる都市にあてはまると思うものを選択

# 県外からの新潟県への評価は高い

## 転勤先ランキング

## 新潟県は転勤経験者からの評価が高い

住みやすいと思った都道府県		
1位	北海道	70.4%
2位	福岡県	66.0%
<b>3位</b>	<b>新潟県</b>	<b>62.2%</b>
4位	静岡県	55.0%

食べ物がおいしいと思った都道府県		
1位	北海道	89.8%
2位	福岡県	73.4%
<b>3位</b>	<b>新潟県</b>	<b>70.3%</b>
4位	長崎県	65.6%



<出典> 東急住宅リース株式会社・東急社宅マネジメント株式会社 2020年2月26日付ニュースリリース 「ビジネスパーソンの転勤事情に関する調査2020」から引用・加工 これまでに転勤で行ったことのある都道府県の中から選択  
調査対象：転勤を経験した既婚男性及び夫の転勤に伴う引越経験のある既婚女性 調査手法：インターネット 調査時期：2020年1月

## 移住希望地ランキング

## 新潟県は20代以下・30代の移住希望が多い

移住希望地ランキング (総合)		
1位	長野県	
2位	広島県	
3位	静岡県	
<b>7位</b>	<b>新潟県</b>	

移住希望地ランキング (20代以下)		
1位	広島県	11.0%
<b>2位</b>	<b>新潟県</b>	<b>10.0%</b>
3位	佐賀県	9.0%
4位	北海道	8.1%

移住希望地ランキング (30代)		
1位	長野県	12.5%
2位	広島県	10.9%
3位	北海道	9.2%
<b>8位</b>	<b>新潟県</b>	<b>6.5%</b>

(参考) 相談者の現在の居住地		
1位	東京都	52.8%
2位	神奈川県	18.6%
3位	埼玉県	11.2%
4位	千葉県	8.6%

<出典> 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 2020年2月25日付ニュースリリース「2019年の移住相談の傾向、移住希望地ランキング」から引用・加工  
調査対象：ふるさと回帰支援センター（東京）の窓口利用者ほか 調査手法：移住相談カード 調査時期：2019年1月～12月

# 新潟市は生活分野・教育分野の指標が高い

政令指定都市 幸福度ランキング

新潟市は生活分野・教育分野の指標が高い

総合ランキング							
総合	政令市	基本指標	分野別				
			健康	文化	仕事	生活	教育
1位	さいたま市	1位	5位	5位	7位	15位	10位
2位	浜松市	3位	2位	16位	5位	2位	8位
3位	川崎市	4位	4位	11位	1位	11位	17位
<b>6位</b>	<b>新潟市</b>	<b>16位</b>	<b>12位</b>	<b>15位</b>	<b>13位</b>	<b>1位</b>	<b>2位</b>



## 基本指標

一人あたり市民所得		
1位	横浜市	4,066千円
2位	川崎市	4,028千円
3位	名古屋市	4,001千円
<b>20位</b>	<b>新潟市</b>	<b>3,041千円</b>

勤労者世帯可処分所得		
1位	さいたま市	632,076円
2位	川崎市	556,727円
<b>3位</b>	<b>新潟市</b>	<b>534,325円</b>
4位	千葉市	534,199円

新潟市の「一人あたり市民所得」は政令市最下位  
 一方、「勤労者世帯可処分所得」は政令市3位  
 ⇒ 新潟市は「配偶者の収入」が、政令市1位  
 （128,643円/月 2019年）であり、  
**新潟市は「共働きで世帯として所得を稼ぐ」まち**  
 ⇒ 共働きに対する理解や支援が重要

課税対象所得÷市民税所得割納税義務者数  
 市町村税課税状況等の調（総務省）  
 2018年度（2017年分所得）

二人以上の勤労者世帯 1世帯・1ヵ月あたり  
 家計調査（総務省）2019年

<出典> 寺島実郎 監修 （一財）日本総合研究所 編 東洋経済新報社「2020年版 全47都道府県 幸福度ランキング」から引用・加工

# 新潟市は生活分野・教育分野の指標が高い

## 生活分野の指標

新潟市は、2016年・2018年に続いて3回連続で分野1位になっている

持ち家比率		
<b>1位</b>	<b>新潟市</b>	<b>65.4%</b>
2位	浜松市	63.9%
3位	静岡市	62.8%
4位	さいたま市	61.2%

一般世帯のうち、住居が持ち家である世帯の割合  
 国勢調査（総務省）2015年

一人暮らし高齢者率		
1位	浜松市	13.1%
<b>2位</b>	<b>新潟市</b>	<b>13.6%</b>
3位	静岡市	15.6%
4位	相模原市	17.1%

高齢者のうち、単独世帯である者の割合  
 国勢調査（総務省）2015年  
 数値が小さい方が上位

一般廃棄物リサイクル率		
1位	千葉市	32.6%
2位	岡山市	29.3%
3位	札幌市	27.3%
<b>4位</b>	<b>新潟市</b>	<b>26.8%</b>

一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）  
 2017年度

## 教育分野の指標

新潟市は、2016年は1位、2018年に続いて連続で分野2位になっている

社会教育費		
<b>1位</b>	<b>新潟市</b>	<b>12,594円</b>
2位	札幌市	11,583円
3位	熊本市	10,888円
4位	福岡市	8,669円

自治体歳出決算における社会教育費÷総人口  
 地方財政統計年報（総務省）2017年度

図書館・博物館等施設数		
1位	京都市	79.6件
<b>2位</b>	<b>新潟市</b>	<b>72.4件</b>
3位	浜松市	66.7件
4位	静岡市	41.7件

人口100万人あたり  
 社会教育調査（文部科学省）  
 2018年10月1日現在

義務教育費		
1位	大阪市	851,292円
2位	京都市	793,021円
<b>3位</b>	<b>新潟市</b>	<b>788,365円</b>
4位	川崎市	759,613円

公立小・中学校の児童・生徒1人あたり  
 地方財政統計年報（総務省）、  
 学校基本調査（文部科学省）2017年度

<出典> 寺島実郎 監修 （一財）日本総合研究所 編 東洋経済新報社「2020年版 全47都道府県 幸福度ランキング」から引用・加工

## 新潟への誇りと愛着を育むために

- 若者は新潟に愛着をもっており、外からの新潟への評価も高い  
一方で、新潟に誇りを持っているとはいえない、市民の現状が見えてきた
  - 新潟への愛着を誇りへと高め、**新潟で暮らすことの良さを自信をもって人に示せるようになれば**、新しい人の流れに繋がるのではないか
  - もし進学や就職などで新潟を離れても、また戻ろう・関わろうと思えるようになり、それが人口減少を和らげ、『**将来にわたって活力ある 住みよいまち 暮らしたいまち新潟の実現**』に繋がるのではないか
- 
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、**過密な東京圏に対する、地方暮らしの良さ**が見直されている新潟市の特色である「**都市と田園の調和**」による**暮らしやすさ**は、優位性として鮮明になっている**都心エリア「にいがた2km」の再整備**により、市の中心部が生まれ変わる時期を迎えている



官民連携により、オール新潟で新潟を覆う“マインド”や“空気”を変えていく好機！

(参考) 取り組み事例

一般社団法人 新潟青年会議所 「時代を創造する若者たちへ」(2020年10月)

新潟青年会議所

新潟市で活躍している若手起業家をゲストに迎え、市内の10代～20代の若者に対して、新潟で働く魅力や起業の可能性を示すトークセッションをYoutube Liveで配信

後援申請



後援・広報協力

新潟市

「大学連携新潟協議会」とのネットワークを活用して、新潟市から大学等に対して、学生の実状についてヒアリング 及び 本企画の学生向け周知を依頼